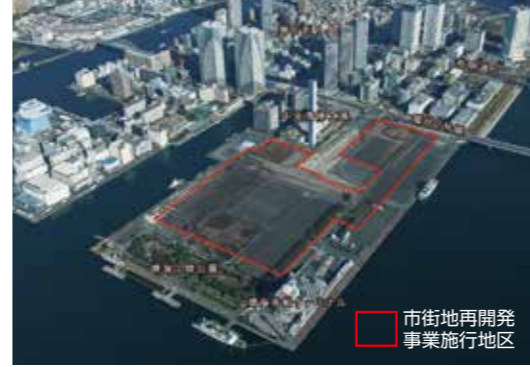


東京 2020 大会のレガシーとなるまちづくり

都は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、「大会」という)の選手村の整備と大会後の新たなまちづくりを進めるため、平成28年4月、晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業に着手し、着実に事業を進めてきました。令和3年には、大会において選手村として使用されました。

大会後は、都心から近く海に開かれた立地特性を生かして、子育てファミリー、高齢者、外国人など多様な人々が交流し、生き生きと生活できる、大会のレガシーとなるまちづくりを進めていきます。

加えて、水素をまちのエネルギー利用として先導的に導入するなど、環境先進都市のモデルとなるまちの実現に向けた取組を推進していきます。



事業着手前 (平成26年12月撮影)



大会時 (令和3年8月撮影)



事業完了時 (令和7年度末イメージ)
※晴海客船ターミナルは、現時点の計画イメージであり、変更となる可能性があります。

東京2020大会に向けて整備した選手村 多様な人々を受け入れる新たなまちへ

- 大会時に選手が滞在した居住棟



Tokyo 2020 / Shugo TAKEMI

総戸数5,632戸の住宅棟へ

選手の宿泊施設として一時使用された住宅棟(板状)の改修や住宅棟(タワー)の建設を行います。



- 大会時に総合診療所(ポリクリニック)やフィットネスセンター等として使用した複合施設



Tokyo 2020 / Uta MUKUO

暮らしを支える商業施設へ

複合施設として使用された商業棟をスーパーマーケットや生活利便施設(予定)等に改修します。



商業棟(完成イメージ)

マルチモビリティステーション、 船着場の整備

晴海地域は、新たなまちづくり等により、今後交通需要の増加が見込まれます。こうした状況に対応し、暮らしの足を支えるため、東京BRTをはじめ、路線バスやコミュニティサイクルなどを導入できる複合的な交通広場や船着場を整備していきます。



詳細は P13 ~ P14

環境に配慮した持続可能な東京2020大会の取組をレガシーに

大会時には、水素エネルギーを活用するなど、環境に配慮した取組が行われました。このような大会時の取組をレガシーとして、新たなまちづくりに生かします。

- 大会時における環境に配慮した取組

- 仮設水素ステーションにより、大会関係車両等へ24時間体制で水素を供給
- 選手村内に設置したリラクゼーションハウス(選手の休憩施設)で、水素から発電した電気を活用



リラクゼーションハウス(内装) リラクゼーションハウス(外観)

脱炭素社会に向けた環境先進都市の モデルとなる都市の実現

- 水素ステーションの整備
- 燃料電池バスなど車両への水素供給
- パイプラインを通じた街区への水素供給



水素ステーション外観イメージ

…東京2020大会の記憶を、心のレガシーとして次世代に引き継いでいく

大会時に設置した施設を記念として街の中に残し、大会の記憶をレガシーとして次世代に引き継ぎます。



- ★ Signages for Direction (案内サイン)



- Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Village Map (村内マップ)



選手村を、誰もがあこがれ
住んでみたいと思えるまちに

詳細は P9 ~ P12